

課題解決型研究プログラム 低炭素研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- これまでの実績や成果を活かし、優れた成果を上げていると評価できる。また、広域観測サイトのネットワーク化が進展していること、国際的な連携や IPCC への対応なども高く評価できる。
- 計画に対して、どの程度進展しているのか、どのように変更しながら取り組んでいるのかが明確に示されるとよい。
- 緩和等の成果はよくわかったが、適応等にどのように対応していくかがわかりにくかった。

今後への期待など

- 3つのプロジェクトをいかに有機的に結合し、低炭素社会実現に向けた具体的な提言を発信できるかについても、今後は積極的な活動を期待する。
- モデル化、予測などがプロジェクトの大半を占めているが、その基礎となる実際の観測についてもっと重点をおくべきである。
- 長期的な観測に必要な人員や予算の確保の努力を期待すると同時に、限られた人員や予算の中では、低炭素社会の実現に必要な研究分野の選択と集中や、観測規模とデータの質、観測期間等の優先順位付けも必要かもしれない。
- 地球的視野においてどのような展開・ゴールを目指すのかという全体像に関わるため、国や地域の選択は良く検討していただきたい。
- 最終目標である低炭素社会実現への貢献や政策決定に寄与するために、各自治体が研究成果を活かして適応策や緩和策を検討できるような研究成果のブレークダウンを期待する。

主要意見に対する国環研の考え方

- ①概ね計画通り進捗しております。PJ1 の観測網整備は予定以上に順調に進みました。PJ2 は陸域統合モデルの本格実験が遅れていますが、技術的な問題の解決に時間がかかったことによります。PJ3 はパリ協定の早期発効に対応して国際制度研究の計画を見直しつつ進めています。大まかには、自己評価で述べたとおりですが、次回の発表からはよりわかりやすく進捗を明示させて頂きます。
- ②適応は本プログラムでも視野に入れていますが、地域での具体的な取組等を含めた研究は統合研究プログラムを中心に実施されております。統合研究プログラムと連携しつつ研究を進めてまいります。
- ③PJ 間の連携については、所内で取り組めるテーマには広範といえども限界や偏りがあるため、各 PJ から国内外の研究コミュニティーへ貢献することを通じた広い意味での分野連携が基本と考えております。ただし、PJ 間の協力を活かして取り組めるテーマがいくつかありますので、その点は積極的に進めたいと思います。
- ④PJ1 の大部分は観測研究でありまして、現状で研究体制の 1/3 程度を充てており、予算配分の最重点も観測研究であるといえます。観測は国内外の分担、協力が必須といえますが、今後も重要な部分を担えるように努めてまいります。
- ⑤今後の社会的な重要性が高い分野と、特に国環研で行う意義が大きい分野を見極めつつ、観測のプライオリティーを考えてまいります。
- ⑥観測網の展開は国内外の分担、協力等の諸事情にも影響されますが、長期的、全体的な戦略を持って検討してまいりたいと思います。
- ⑦国や自治体を対象に低炭素社会の実現に取り組む統合研究プログラムと協力して、緩和策や適応策にかかわる研究成果の社会実装に取り組んでいます。